

# 北海道に梅雨はある？

グループ名：カニカマ 荻原・佐々木(祥)・波田野

**テーマ設定の理由** 我々は札幌でも近年、6~7月上旬に降水量が多く、湿度が高いと感じており、北海道にも本州と同じように梅雨があるように感じたため。

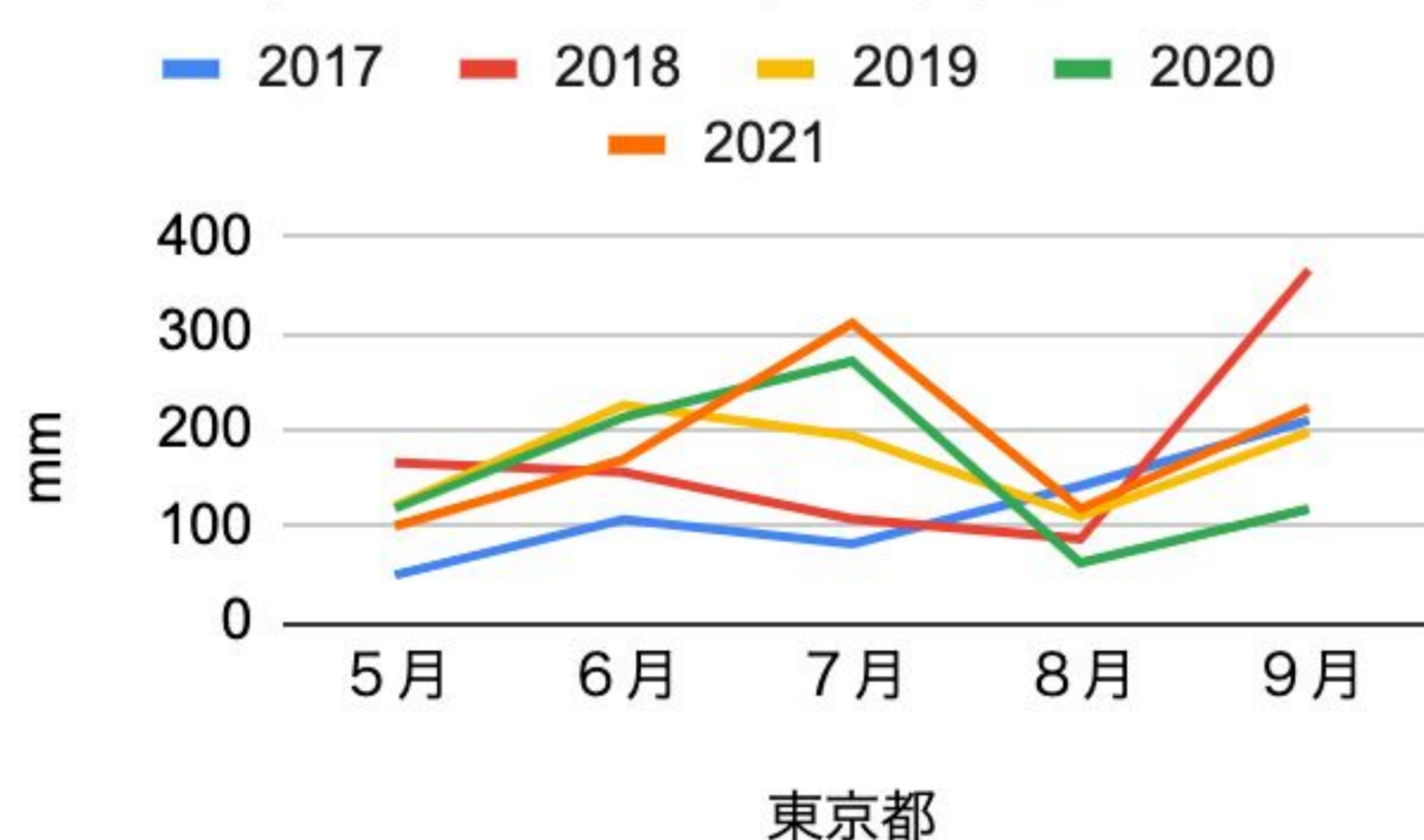
**仮説** 北海道も本州と同じように、梅雨前線の影響で梅雨が存在する。

**研究方法、手順等** 梅雨のある東京と、札幌の2017~2021年の5~9月の降水量・日照時間を比較する。また、今回の研究における梅雨の定義として「晩春から夏にかけて雨や曇りの日が多く現れる現象、またはその期間」とする。(気象庁の回答より引用)

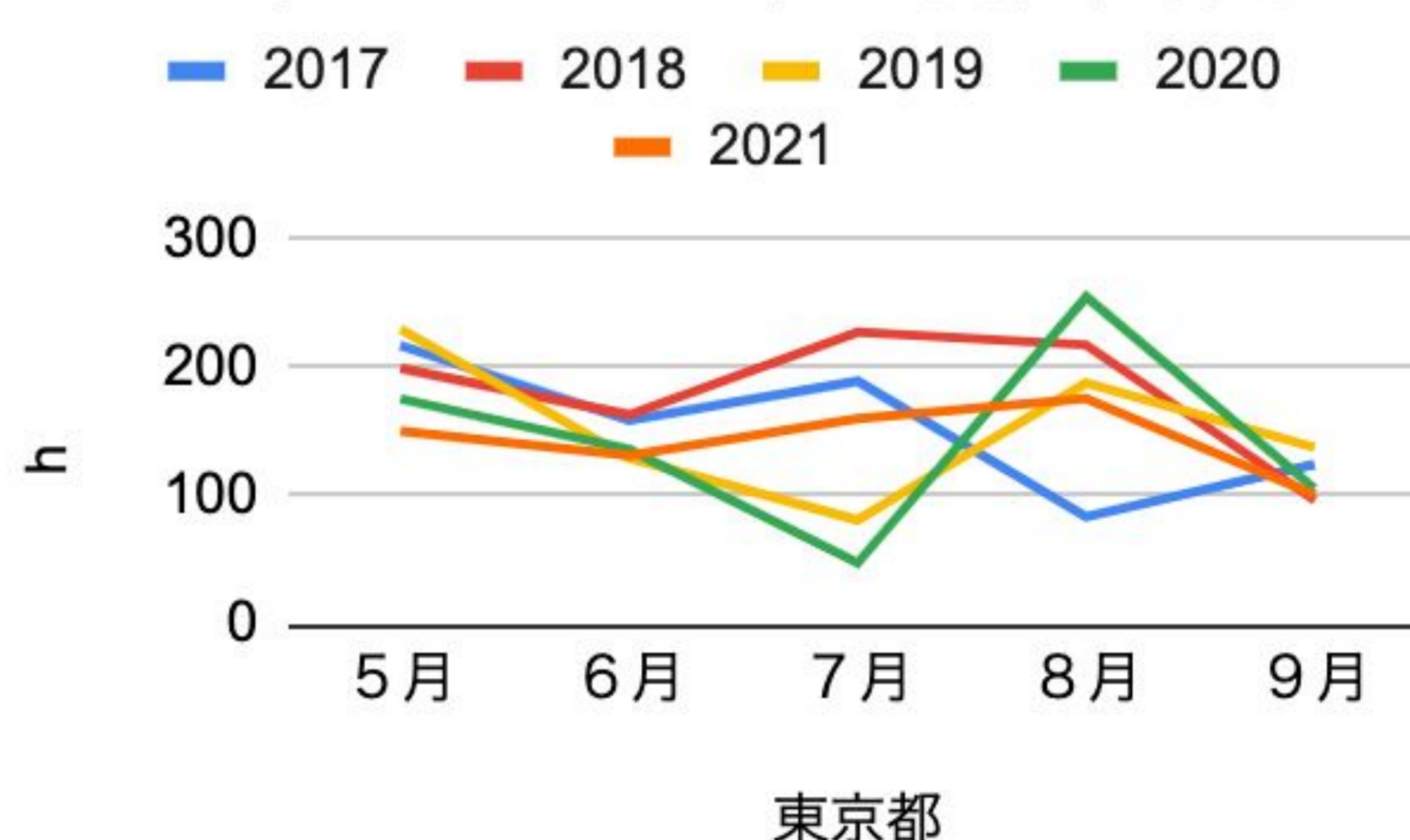
**研究内容** 気象庁HPに記載されている札幌、東京の気象データを参考に、2017~2021年の5~9月の降水量・日照時間の平均のグラフを作成・比較し、梅雨のある東京と札幌のそれらの差を検証する。

## グラフ

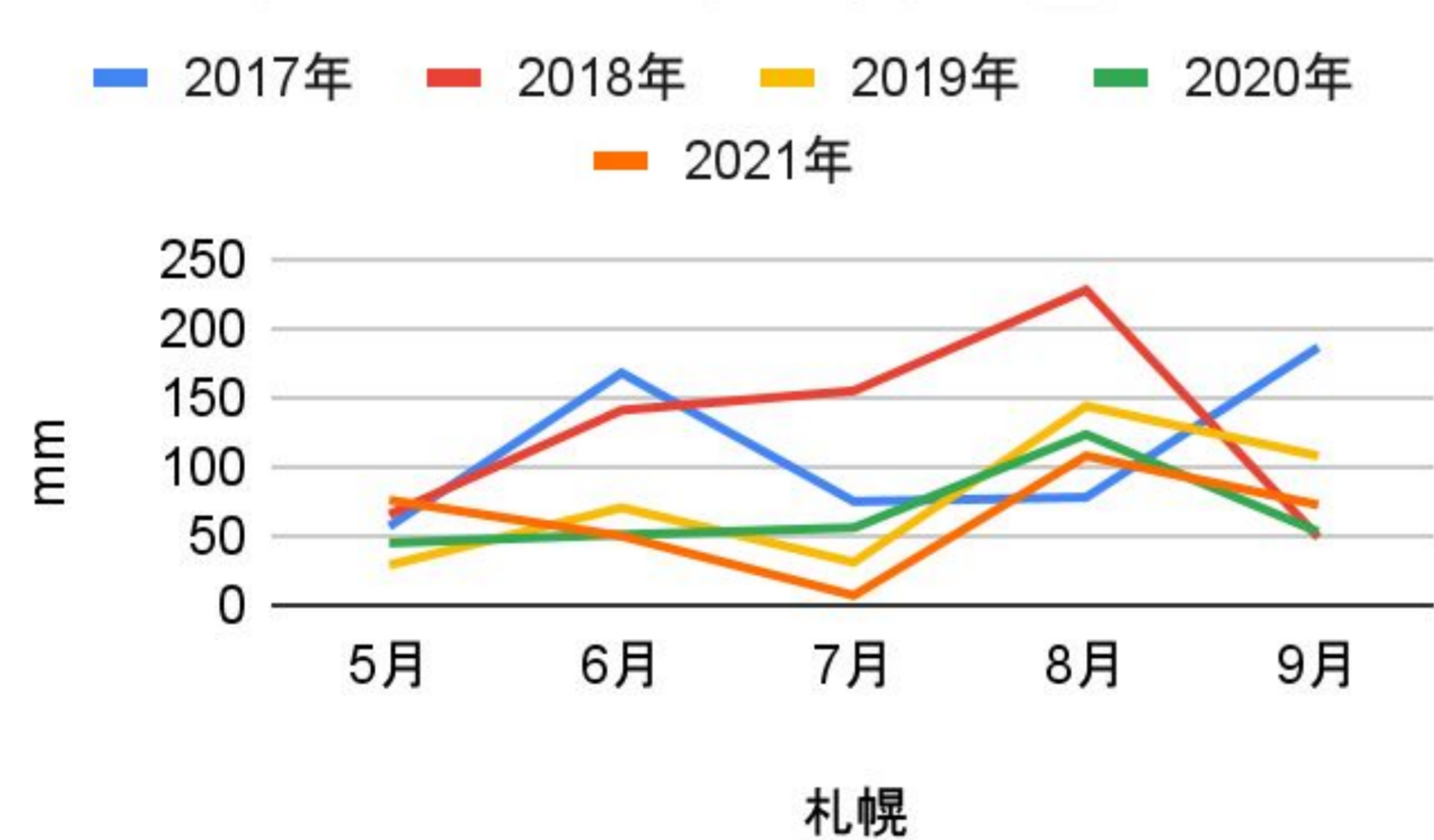
2017年から2021年の降水量



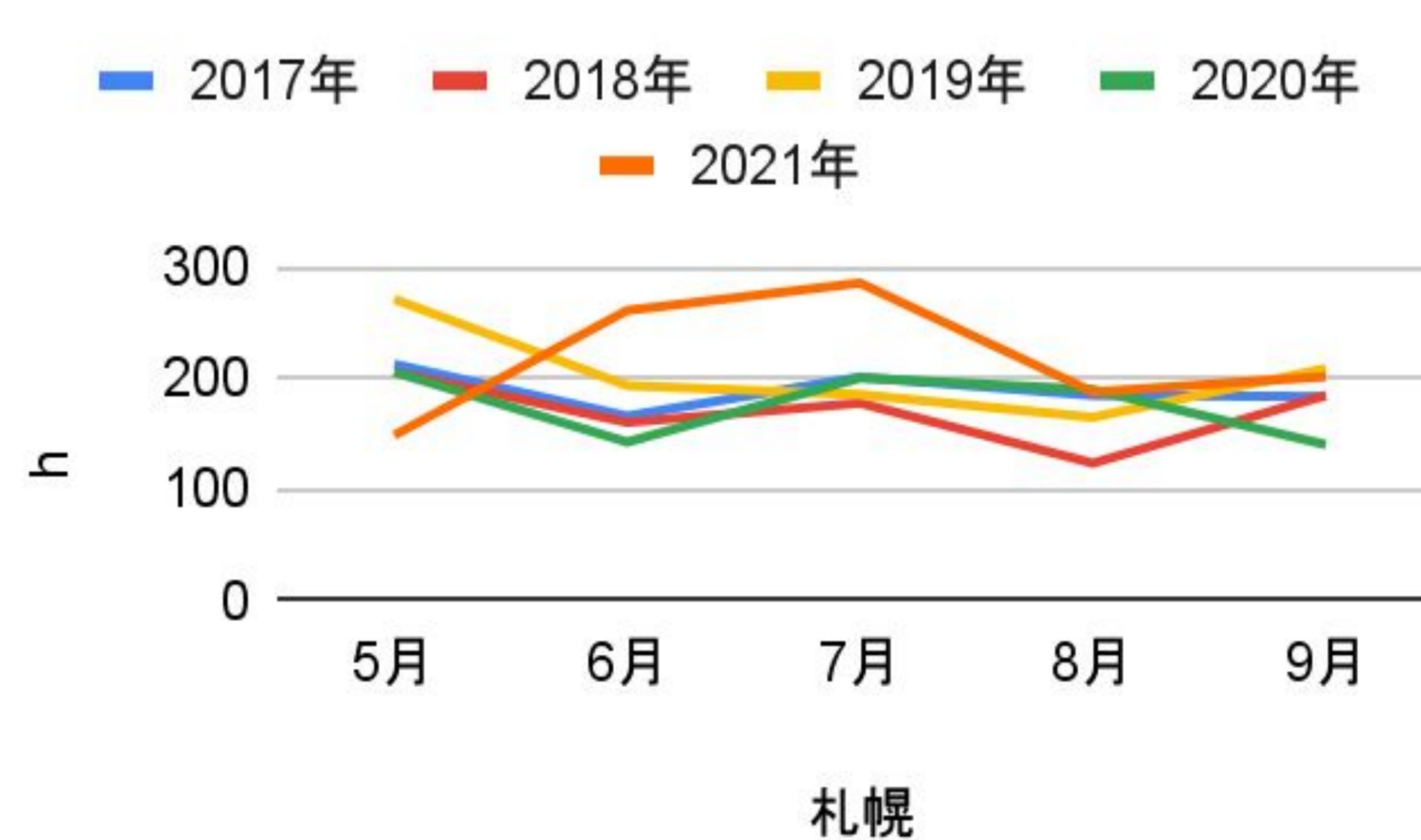
2017年から2021年の日照時間



2017年から2021年の降水量



2017年から2021年の日照時間



## 結論・考察

東京は5月から7月までにかけて降水量が増加する傾向があり、その変動に伴って日照時間も増減している。また、5月から7月に降水量が増加するのは梅雨前線の、9月に増加するのは秋雨前線の影響だと考えられる。

札幌は5月から6月にかけて降水量が増加しており、それに伴って日照時間も減少している。この時期に札幌上空にはオホーツク海高気圧があり、その影響を受けての変化であると考えられる。これらを踏まえて2つの都市を比較すると、降水量の増加の原因が梅雨前線である東京はその期間が長く続いているが、オホーツク海高気圧によるものである札幌は東京に比べ長く続いているとはいえない。

今回の梅雨の定義である『晩春から夏にかけて雨や曇りの日が多く現れる現象、またはその期間』に当てはめて考えると、東京ほど長期間ではないものの「梅雨」と呼べる期間はあるのではないかと考えられる。